Service Ace
サービスエース

四十二球目・半田市と言えば

半田市長 榊原純夫

連日、新型コロナウイルスに関する報道が飛び交う中、市民のみなさまは不安な毎日を過ごしていらっしゃることと思います。一日も早い終息が待たれます。

普段なら簡単に手に入る、マスクや消毒用アルコールと言った日常生活品の不足とともに、今回の件では、ウイルスについてまだわからないことが多く、そのことが更なる不安を呼んでいる側面があります。

国や研究機関、民間企業が新たな治療法やワクチンの開発に全力で取り組んでいますが、今後の見通しや対策の現状に関する情報が未だ少ないと感じます。このことから、適切な情報発信の大切さを改めて感じます。市政全般においても、迅速且つ正確な情報提供を心掛けてまいります。

本市の新型コロナウイルス感染症対策としては、市立小中学校の3月2日から3月24日までの休校、市が主催する不特定多数の参加を伴うイベントの中止や市内公共施設利用の自粛呼びかけ、感染予防の啓発など、遅滞なく市民の健康、安全を守るための行動をとってまいります。

3月も中盤を迎え、いよいよ新年度が近づいてまいりました。転勤や就職、入学で半田市を離れる方、逆に半田市に入ってこられる方が最も多くなる時期です。本市では近年、まちの魅力を多くのみなさんに知っていただくとともに、市民のみなさまにはまちへの愛着を深めていただく「シティプロモーション」に力を入れて取り組んでいます。そして、この時期はその絶好の機会だと考えています。

そこで、今回は本市発展のルーツとも言える半田運河と醸造業についてご紹介いたします。

みなさまからも市外の方に、半田市の魅力やご自身の好きなところを発信していただけると幸いです。

半田市と言えば…ふだん我々は、「山車、蔵、南吉、赤レンガ」と答えていますが、全く本市を知らない方に半田を覚えていただくには「お酢のまち、ミツカン創業の地、半田」というフレーズもイメージが湧きやすいと思います。

半田市の醸造の歴史は江戸時代まで遡ります。この地域で盛んであった日本酒の製造工程で出る酒粕を用いて、良質な味と香りを備え、しかもリーズナブルなお酢を作るようになり、それを使った寿司が江戸でブームを巻き起こし、広く庶民に普及したと言われています。

そこで、本市の特色のひとつである「お酢」と醸造文化、酢づくりの歴史を多くの方々に知っていただくため、令和2年度は、食の観光としての「寿司」にスポットライトを当てます。具体的には、尾州早すしの更なるPRを始め、市内の寿司店を巡ってもらう仕組みづくりや、新たに半田運河周辺において、寿司を楽しむイベントの開催を計画しています。

「はんだ＝寿司のまち」が人々の間で浸透するよう、知恵を絞って新たな半田の魅力づくりにチャレンジしてまいります。

また、醸造業の隆盛に大きく貢献した半田運河は、本市の観光スポットの一つとして整備を進めているところです。観光で訪れる方々に散策しながら景観を楽しんでいただけるよう、令和4年4月の供用開始を目指し、新川との合流地点に人道橋を架け、回遊性の向上を図ります。

このほか半田運河周辺には、MIM（ミツカンミュージアム）始め、國盛酒の文化館や半六庭園など「観て楽しい」、「体験して楽しい」観光施設がいくつも集積しております。

これから春の訪れとともに、暖かい日差しの下、まち歩きに最適な季節となってまいります。みなさまもぜひ、友人、知人をお誘いになって、東雲桜の咲く運河周辺などを歩いて、まちの魅力を再発見してください。

▲半田運河

▲尾州早すし